

青い鳥のお仕事をのぞいてみよう！

～療育センター・言語聴覚士（ST）の場合～

<何をする人？>

聞こえ、ことば、食べることについての専門職です。聴覚障害、ことばの発達の遅れ、声や構音の障害、吃音など、ことばによるコミュニケーションの問題に対して、評価、指導、助言、その他の援助を行います。医師や歯科医師の指示のもと、摂食嚥下指導も行います。外来や通園での仕事の他、地域の関係機関とも連携しています。

<支援の対象はどんな人？>

上記の障害やその疑いのある方です。療育センターによって、主な対象年齢に違いがあります。横浜市の療育センターは主に就学前のお子さんの評価や指導を行っています。

<どんな支援をするのか教えて！>

聴覚障害のお子さんには、補聴器などで聞こえを保障した上で、聴覚と言語発達を促すため指導を行っています。

ことばの発達の遅れのお子さんには、ことばの理解と表出、コミュニケーション面の評価を行い、それぞれの発達を促す関わり方を親御さんに助言します。理解と表出に差があるお子さんには、実用的なコミュニケーション手段の獲得のため指導を行います。

発声や構音障害のお子さんには、言葉の状態を評価し、年齢に応じた助言や指導を行います。吃音のお子さんには、吃音の評価後に環境調整を助言し、吃音が継続している場合は指導を行います。

通園児の給食時には摂食嚥下機能の指導を行います。

学齢児の読み書きの困難さがある方には、評価と助言を行います。

幼稚園、保育所、学校などと連携し、お子さんとご家族の地域生活における支援を共に考えていきます。

<ある療育センターでの一日の流れ>

08:30【出勤】

更衣室で仕事着に着替えます。お子さんたちとたくさん遊ぶので、Tシャツにジャージのような動きやすい服装です。女子更衣室はまぶしいピンク色で明るい気持ちでスタートできます。きれいにリフォームされ、洗面台は髪も洗えそうなくらい大きく立派になりました。

職場近くの保育園に預けるため子どもと一緒に電車通勤しています。出勤時30分、退勤時30分の時間短縮勤務のおかげで、通勤ラッシュを避けることができます。(6年目)

更衣室のロッカーも新しくなる予定で楽しみです。(17年目)

08:45【始業】

当日の予定を確認して、部屋や教材の準備をします。週に1回はSTの職員みんなで部屋のそうじやミーティングをします。センター全体の出来事を確認したり、お子さんのことを相談しています。自分の考えを言葉にして話し合うことで、気付かされることがたくさんあり、とても助かっています。

少人数のミーティングなので、どんなことでも相談できますよ。(17年目)

09:00【指導】



朝一番の時間は年長児さんの指導が多いです。指導を終えてから幼稚園や保育園に向かいます。みんな自分のノートをもって、はりきって言葉の練習に來てくれます。

ごほうびシールも豊富でみんな大喜びです。(17年目)

消極的だったお子さんが、指導を通して自信をつけ、積極的に取り組み楽しんでいる姿を見ると嬉しくなります。(6年目)

09:45【聴力検査】

早期療育科や通園課のお子さんで、ご希望がある方に聴力検査を行い、聞こえの問題がないかどうか確認しています。年少のお子さんには聞こえた方向を見ると光がついておもちゃが回るC O Rの検査を、年長のお子さんには聞こえた時にスイッチを押すと電車が動くPeep-Showの検査をしています。聴力検査の部屋は防音室でちょっと暗いので、怖がる子もありますが、検査自体はとっても楽しいので、みんな大好きになってくれます。



10:00【評価】



相談内容に応じた各種言語検査や聴力検査を行います。S-S法言語発達遅滞検査、L Cスケール、構音検査、吃音検査などの検査を行い、言葉の状態やコミュニケーション面を評価します。検査の後は、好きなことで遊びます。

検査場面と遊び場面ではお子さんの様子が違うことがあり、遊びながら普段の様子を確認します。そして保護者から相談事についての聞き取りをし、評価した内容をお伝えします。家庭生活でできることをひとつでも多くお伝えしたいと思っています。

その後、お子さんの状況によっては、週1回から月1回の頻度での指導になることもありますし、3ヶ月後や半年後の経過観察になることもあります。

担当しているお子さんについて、関わっている理学療法士(P T)や作業療法士(O T)、通園の先生やソーシャルワーカー(S W)と情報を共有することで、一人で悩むことなく、より良い指導につなげることができます。(13年目)

判断に迷うときは、S T同士で相談しながら、考えていくことができます。(11年目)

12:00【給食】

通園児の給食時に、摂食嚥下機能に応じた食事介助をします。給食場面は食べる機能の指導場面でもありますが、一対一でじっくり楽しめるコミュニケーション場面でもあります。

好きなものを選んだり、「美味しいね！」と共感し合ったり、嫌いなものもがんばって食べて褒められたりしながら、食事を安全に、そして楽しんで欲しいと思っています。

お子さんに合った食形態の食事を栄養士が美味しそうに工夫して盛り付けてくれています。(17年目)

給食は栄養バランスもよくて美味しいです！
(4年目)



13:00【休憩】

給食の後は休憩です。スタッフルームにはコーヒー、紅茶、緑茶、ほうじ茶などなどいろいろな種類の飲み物と、おいしいお菓子がたくさんあります。ほっと一息できる時間です。そして他の職種とのおしゃべりも楽しいです。

好きなお菓子をリクエストできますよ。
(17年目)

PT・OT・心理など他職種とも普段から仲が良いので、他職種の報告書で分からないことや、ちょっとしたお子さんの相談なども気軽にできてありがたいです。
(7年目)

昼休憩では同僚と雑談をしながら食事をします。仕事のこと、家庭のこと、子育てのことなど、様々なライフステージにいる同僚の意見を聞くことができます。(11年目)

14:00【指導やフォロー】

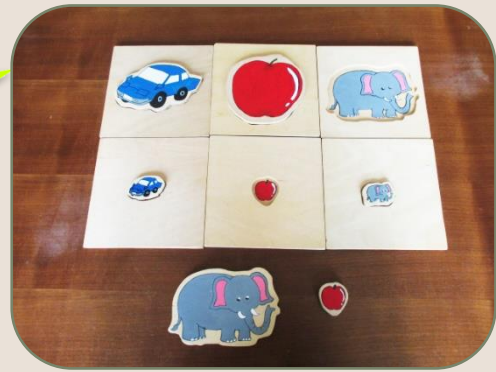


午後の時間は、指導やフォローに来られる方が多いです。時間はお子さんによって異なり、40分から1時間半まで様々です。その子自身の学ぶ力を促すため、関わり方や教材などを工夫します。保護者と同じ場面で、ともにお子さんの状態を確認し、成長を伝えたり、普段のご様子を聞きながら家庭での関わり方を考えます。指導の合間に、記録、片付け、準備も行います。

言語の問題だけではなく、様々な苦手さを持つお子さんを、他職種と相談しながら、多角的に支援することができます。(11年目)

お子さんの成長を保護者と共に喜ぶことができるのは、やりがいにつながります。(11年目)

電のこ・ドリルなど使って、手作りのはめ板を作ることもあります。(17年目)
その子がどんな工夫をしたら楽しく学べるかなと考えるのは、難しいけれどワクワクもします。(13年目)



南部地域療育センターは横浜で一番歴史ある療育センターなので、諸先輩方が作った教材がたくさんあります！教材やご褒美を工夫して、お子さんが意欲的に取り組んでくれると『やったー！』とうれしくなります。(7年目)



17:15【退勤】

一日お疲れ様でした。お子さんを対象とするSTは、楽しい関わりの中でお子さんに学習してもらおうので、体を使って一緒に遊ぶことがとっても多いです。お子さんからたくさんのエネルギーをもらえますが、ST自身も負けないようにエネルギーをお返しするつもりで取り組んでいます。普段から健康に気をつけてお子さんを笑顔で迎えらるよう、プライベートも充実させていくことを心がけています。また明日も楽しんでいきましょう！

同年代の他職種といろいろな話をして帰ることもあります。(4年目)